

首都大学東京 学士課程教育

「学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」

プログラムの名称：人文・社会系 心理学・教育学コース

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー:DP）

(1) 取得できる学位

- 心理学分野
学士（心理学）
- 教育学分野
学士（教育学）
- 言語科学分野
学士（言語学）
- 日本語教育学分野
学士（日本語教育学）

(2) 取得できる資格

- 心理学分野
 - ①卒業することで取得できるもの
 - ・該当なし
 - ②卒業することで受験資格を得られるもの
 - ・認定心理士（ただし、下記⑥卒業要件のうち、心理学分野の1.を満たし、日本心理学会の認定心理士資格申請の要件を満たしていることを確認し、大学卒業後個人で資格申請を行う必要があります）。
 - ③別に定められた課程を修めることで取得できるもの
 - ・高校一種（公民）、中学一種（社会）の教員免許、学芸員、社会教育主事の資格を取ることができます。
 - ④卒業することで一部の試験科目が免除になるもの（主な資格に限る）
 - ・該当なし
- 教育学分野
 - ①卒業することで取得できるもの
 - ・該当なし
 - ②卒業することで受験資格を得られるもの

・該当なし

③別に定められた課程を修めることで取得できるもの

・高校一種公民、中学一種社会の教員免許、学芸員、社会教育主事の資格を取ることができます。

④卒業することで一部の試験科目が免除になるもの（主な資格に限る）

・該当なし

○言語科学

①卒業することで取得できるもの

・該当なし

②卒業することで受験資格を得られるもの

・該当なし

③別に定められた課程を修めることで取得できるもの

・該当なし

④卒業することで一部の試験科目が免除になるもの（主な資格に限る）

・該当なし

○日本語教育学分野

①卒業することで取得できるもの

・該当なし

②卒業することで受験資格を得られるもの

・該当なし

③別に定められた課程を修めることで取得できるもの

・高校一種国語、中学一種国語の教員免許を取ることができます。

④卒業することで一部の試験科目が免除になるもの（主な資格に限る）

・該当なし

(3) 育成する人材像

人の心を深く知り、理解することのできる力を養成します。そのために、人に興味があるだけではなく、社会や文化に関する関心を持ち、広い視野で物事を考えられることのできる力を養成します。柔軟な思考と、新鮮な問題意識を持ち、行動していける力を養成します。人と接することが好きで、人の役に立ちたいと思える力を養成します。人について深く探究していける力を養成します。

卒業後の進路は、以下のようなものがあります。

心理学分野：

大学院進学、公務員（一般職・心理職）、一般企業（出版・教育・コンピュータ・サービス業）

教育学分野：

教員、児童館、公民館、博物館、図書館、児童養護施設、教育委員会、非営利団体（NPO）、教育・文化に関する出版社、その他一般企業、大学院進学

言語科学分野：

大学院進学、海外留学、研究機関、外資系企業、出版社、言語療法士、学習支援コーディネーター、ライフサイエンス系コーディネーター、通訳

日本語教育学分野：

教員、海外の日本語教育専門家、非営利団体（NPO）、教育・文化に関する出版社、その他一般企業、大学院進学

(4) プログラムの特色

○心理学分野

現代の心理学は、「人間がどのように生き、環境に適応しているのか」に関心をよせ、それに多様な方法から説明をしています。この分野は、研究する人間の頭の中だけでなく、データに沿って考察を巡らす分野です。つまり観察や実験、検査、面接などを介して、日常の感覚や知識に疑問を立て、より適切な説明を見いだすことを目指します。その結果、ふだんは見ることのない病理や行動のしくみ、人間活動の円滑さ、難しさ、異数の経験などについての理論構築が始まります。人間行動のしくみについて探究をすすめてゆきます。

本学の「心理学分野」には、実験心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学という異なる接近法の領域が用意されています。ゼミを単位として異なる科学的方法により、たがいに影響し合ってよりすすんだ説明に近づこうとしています。意識した心についての研究もあれば、非意識的な経験をも含めた行動の研究、あるいは生理的指標にもとづく研究もあります。観察しうる事実としての行動もあれば、思いに支えられた心的活動も取り上げます。人間というもののあり方、関係の意味、社会文化や自然との人間の関わり方などについて、多様なアプローチから考え直す機会がえられます。2年次から実習を始め、3、4年次には初めての研究に手をつけ始めることになります。人間について人間がとらえることには、限界がありますが、しかしそこからより深い人間世界への解明を深めることができるのではないかと考えています。

○教育学分野

教育学とは教員養成のための分野と理解されがちですが、人間の成長に関わる諸科学をカバーし、統合しうる可能性のある教育学研究の場です。本研究室では現在助教も合わせて教育学研究最前線で活躍するスタッフが自らの専門的研究を深め、その成果を授業に反映させ、それと同時に、研究室全体でよりよい学習研究環境・教育成果を作り上げようと日々励んでいます。

現在、授業担当の専任教員が専門とする領域は、教育政策・制度、教育実践と日本教育史、

青年期の問題と学校（中等教育）と社会（労働）の接続、比較教育と臨床教育学、多文化教育、社会教育、障害児を対象とする発達と教育です。専任教員ではカバーできない領域に関しては非常勤講師を依頼していますが、人選については教員・学生・院生三者で構成される三者懇談会の場で、その他研究室運営上の問題と一緒に話し合います。

本分野では、演習単位で学校見学や合宿を行うところもありますが、研究室全体では毎年4月にオリエンテーションと懇親を兼ねた合宿があります。また新2年生を対象に『教育学入門』（必修）が開講され、全教員がこれを担当します。本分野は必修とされる科目が比較的少なく自由度が高いのですが、集大成としての卒業論文は必修であり、最後のハードルは高くなっています。したがって、問題意識を持ち、自立した学習者になることが求められます。また学生主宰のイベントも多彩であり、学生間の交流を深めています。

○言語科学分野

言語科学分野では、「多言語にわたる理論的・実証的探究」と「多分野にまたがる学際的探究」の2つを柱として、教育を行っていく。「自然言語を科学的に分析する」ことに主眼を置いた当研究分野は、普段身近ではあるが、それゆえに体系的に説明することが必ずしも平易ではない「言語」の性質を明らかにすることによって、人間の精神や一般認知能力を科学的に解明することを理念としている。自然科学／認知科学の一環としての言語学に基づいた教育を行うことによって、論理的、客観的思考と優れた分析的能力、及び、テーマの発掘と解決能力、情報編集能力を備えた人材を育てることを目標とする。

○日本語教育学分野

日本語教育学では日本語をはじめとする言語力全般を養成します。日本語を外国語としても母語としても深く理解し、異文化の人々の間との日本語によるコミュニケーションを指導・促進する力を養成します。また、言語学的な知識ばかりでなく、言語教育学・社会と言語とのかかわり・異文化コミュニケーション論・教育工学の基礎を習得します。日本語と日本文化を他言語・他地域との対照において深く理解し、それをグローバル社会の中で伝達していく言語力を身につけます。人々の移動が増えて行く社会的現実の中で、言語教育やそれを取り巻く環境を理解し、対応・行動して行ける人材を養成していきます。

(5) 獲得すべき学習成果

① 分野固有の知識・理解及び技術

心理学・教育学・言語科学・日本語教育学に関する専門的な知識・理解及び技術、幅広い教養としての知識・理解。

② 当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

心理学・教育学・言語科学・日本語教育学を媒介にしたコミュニケーション能力、情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解。

(6) 卒業要件

心理学・教育学コースの卒業要件は、上述した育成する人材像及び獲得すべき学習成果を踏まえ、卒業に必要な単位数及びその他の要件を定めるものとする。

なお、本学在学生在が卒業要件を確認する場合は、必ず入学年度発行の履修の手引きを参照すること。

(別表) 心理学・教育学コース卒業要件

卒業に必要な単位数 130 単位以上です。ただし、言語科目のうち第二群言語科目 12 単位、およびそれ以外の基礎科目群、教養科目群・基盤科目群 26 単位以上が含まれていなければなりません。さらに、教室ごとに記載された次表の科目ごとに必修単位などを含まなければなりません。

○心理学分野

1. 心理学分野の専門教育科目を 54 単位以上修得し、その中に「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」、「心理学方法論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「卒業論文」がすべて含まれていること。
2. もしくは、心理学分野専門教育科目 60 単位以上修得し、その中に「心理学概論Ⅰ・Ⅱ」、「心理学方法論演習Ⅲ」、「卒業論文」が含まれていること。

○教育学分野

教育学分野の専門教育科目を 54 単位以上（必修科目である「教育学入門」、「教育研究法」、「卒業論文」を含む）修得しなければならない。

○言語科学分野

言語科学分野の専門教育科目を 54 単位以上（必修科目である「言語科学概論」、「音韻論基礎」、「心理言語学」、「言語科学文献講読」を含む）修得しなければならない。

○日本語教育学分野

日本語教育学分野の専門教育科目を 56 単位以上（必修科目である「卒業論文指導」、「卒業論文」などを含む）修得しなければならない。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー:CP）

(1) 専門教育における学習成果の確保のための科目編成・教授法・評価法等の基本的考え方

①分野固有の知識・理解及び技術

心理学・教育学・言語科学・日本語教育学に関する専門的な知識・理解及び技術、幅広い教養としての知識・理解を身につけます。

②当該分野以外においても普遍的に有用性を持つ能力

心理学・教育学・言語科学・日本語教育学を媒介にしたコミュニケーション能力、情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力、能動的学習姿勢、倫理観社会的責任の自覚、異なる文化・社会への理解を身につけます。

そのために、分野ごとに次のように教育課程が編成されています。

○心理学分野

現代心理学では、「人間が、他者を含めた周辺環境の中でどのようにして関わりを持ち適応するか」に関心が高くなっています。この関心に向けて、大学の心理学では、データを用いて研究し考察を進めます。本学の場合、学生は様々な理論や研究に触れるだけでなく、実習によって観察、実験、調査、検査、面接といった方法から人間行動の研究を行います。心のはたらき、経験の意味さらには行動の仕組みについて分析し、洞察を深めていきます。

まず2・3年次に心理学の基礎および実験、実習など、心理学を研究する上で必要な調査方法や分析方法などのスキルを身につける講義や実習があります。3・4年次に自分の研究テーマを絞り、担当教員のもと、卒業論文に向けて学びを深めていきます。

○教育学分野

教育学は、人間の成長に関わる諸科学を統合しながら、乳幼児から子ども・青年、成人までの発達と学習、それを支える学校など諸制度のあり方を考えます。教育政策・制度、教育実践と日本教育史、青年期の学校と社会・労働、比較教育と臨床教育学、多文化教育、社会教育障害児を対象とする発達と教育など、多彩な授業や実習を用意しています。

まず2年次の「教育学入門」で教員全員の研究内容を学び、教育学への基礎知識を深めます。選択科目が多く、各自の興味に即した講義を自由に学ぶことができます。養蚕文化や人形浄瑠璃を学ぶ授業など、個性的な学びの経験もしています。また、その他の人文社会系コースの科目をとることもできます。そして何よりも、3年間をかけて「自分のテーマ」を見つけ、自立した学習者として追求していくことを重視しています。

○言語科学分野

言語科学教室では、人間の認知能力を学際的に探求する「認知科学」の一環として位置づけられる、「自然科学としての言語学（生成文法理論）」の研究を通して、ヒトのもつ生得的な言語機能、およびその生物学的基盤を明らかにする。「多言語にわたる理論的・実証的研究」

と「多分野にまたがる学際的研究」の2つを教室の柱としている。

2・3年次には、理論言語学および認知神経科学の基本的な知識を身につける。理論言語学の分野の演習では複数の言語を横断的に観察・分析し、その背後にある普遍的なメカニズムと個別言語の特徴を見いだすことによって、科学的思考法を身につける。認知神経科学の分野では、演習を通して脳機能計測の意義と方法論、統計学、プログラミングなどを学び、データを解析的に検討する力をつける。3・4年次では、演習科目を中心とした授業で、国内外の学術論文による文献研究能力を養う。言語理論／認知神経科学に関して、一つの研究プロジェクトを遂行する訓練を行う。

○ 日本語教育学分野

日本語教育学では日本語ということばの成り立ちや音韻・文法、習得過程、社会や心理と言語とのかかわりを基礎から学ぶ科目を用意しています。また、さまざまな選択科目があり、日本語と日本語教育にかかわり、言語力を高めるさまざまな内容の履修をすることができます。こうした科目での研鑽を積んだ上で、教育への応用や、研究に結びつけて行きます。国内海外の教育現場との交流も盛んであり、教育実習や遠隔教育の実習の機会もあります。

まず2年次に日本語教育学の基礎となる日本語教育学概論、日本語学概論、日本社会言語学概論、日本語習得論概論を履修してください。その上で、日本語表現法やコミュニケーション論、日本の社会と文化を客観的に分析する講義と演習、教育工学的な手法による言語教育、言語調査、教育実習など多彩な科目を履修することになります。

基礎から教育現場での応用まで多様な科目を受講し、4年次に自分の研究テーマを絞り、担当教員のもと、卒業論文に向けて学びを深め、実践力を高めていきます。

○心理学分野

全学共通科目

基礎科目群、教養科目群、基盤科目群（1年、2年）

専門教育科目群

必修科目

心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理学方法論演習Ⅰ、心理統計学Ⅰ・Ⅱ（2年）

心理学方法論演習Ⅱ（3年）

心理学卒業論文、心理学方法論演習Ⅲ（4年）

選択必修科目

心理学総論科目群から選択（2年）

心理学総論科目群・心理学特殊講義科目群・心理学演習科目群から選択（3年）

心理学特殊講義科目群・心理学演習科目群から選択（4年）

自由科目

心理学・教育学コース提供科目、その他の人文・社会系コース提供科目（2年）

心理学・教育学コース提供科目、その他の人文・社会系コース提供科目（3年）

心理学・教育学コース提供科目（4年）

○教育学分野

全学共通科目

基礎科目群、教養科目群、基盤科目群（1年、2年）

専門教育科目群

必修科目

教育学入門（2年）

教育学卒業論文、教育研究法（4年）

選択必修科目

教育心理学、生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ、教育原理Ⅰ・Ⅱ（1年）

学校文化研究、比較教育学、社会教育計画論（2年）

教育行政学、教育史、多文化教育学演習、臨床発達学演習（3年）

社会教育学演習、教育内容・方法論演習（4年）

自由科目

教育学A・B（1年）

心理学・教育学共通科目、教職専門科目（2年）

心理学・教育学共通科目、教職専門科目（3年）

心理学・教育学共通科目、教職専門科目（4年）

○言語科学分野

全学共通科目

基礎科目群、教養科目群、基礎科目群（1年、2年）

専門教育科目群

必修科目

言語科学概論、音韻論基礎、心理言語学、言語科学文献講読、卒業論文（4年）

選択必修科目

音韻論、統語論、生成言語理論、日本語の変遷、ロマンス語の構造、意味論、
社会言語学、言語と文化、言語脳科学、発達科学、精神神経科学

自由科目

コース内他分野提供科目、その他の人文・社会系コース提供科目

○日本語教育学分野

全学共通科目

基礎科目群、教養科目群、基盤科目群（1年、2年）

専門教育科目群

必修科目

卒業論文指導（3，4年）、卒業論文（4年）

選択必修科目

日本語教育学概論、日本語学概論、日本社会言語学概論、日本語習得概論（2年）

日本語学講義、日本語学演習、日本語教育学講義、日本語教育学演習

日本語習得論講義、日本語習得論演習、日本語表現法Ⅰ、日本語表現法Ⅱ、

日本語教育実習（以上3，4年）

比較言語文化論、言語学特殊講義、コミュニケーション論（2，3，4年）

自由科目

コース内他分野提供科目、その他の人文・社会系コース提供科目（2年）

コース内他分野提供科目、その他の人文・社会系コース提供科目（3年）

コース内他分野提供科目（4年）

(2) 全学共通教育における学習成果の確保のための履修要件・履修指導等の基本的考え方

1年次

1)1年前期に基礎ゼミナール（2単位）、情報リテラシー実践Ⅰ（2単位）を履修するとともに、1年次を通じて実践英語Ⅰa,b,c,d（計4単位）を履修します。（必修）

2)教養科目群・基盤科目群から、幅広いテーマ・領域に渡って履修することが望まれます。また、推奨科目を含めて履修することが望まれます。（分野ごとの教養科目群・基盤科目群の推奨科目については下記参照。）

3)未修言語科目（第二群言語科目、12単位）を履修します。（必修）

4)保健体育科目を2単位以上履修することが望まれます。

5)基礎科目群、教養科目群、基盤科目群の中から必要単位を修得しておくのが望まれます。また、自由選択科目としても、それらの科目等を履修します。

2年次

1)実践英語Ⅱa,b,c,d（計4単位）を履修します。（必修）

2)教養科目群、基盤科目群、および基礎科目群のキャリア教育科目については、卒業に必要な単位14単位を修得します。

3)2年次の終わりに、2年次修了の判定が受けられるよう、所定の単位を修得する必要があります。修了判定の基準については、次項「年次進行要件」を参照のこと。

・教養科目群・基盤科目群の推奨科目

- 心理学分野（心理学の基礎、心理学方法論、心の科学、生活の心理学）
- 教育学分野（「教育問題」を読み直す、学校と労働社会、教育学 A、教育学 B）
- 言語科学分野（ことばの科学）
- 日本語教育学分野（日本語の社会と文化, The Japanese Language, Japanese Language and Society, Intercultural Communication and Interaction)

(3) 年次進行判定

2 年次修了判定を以下の基準で行っています。これは、心理学・教育学コースのカリキュラムによって学習成果を上げてもらうためです。

次の①、②の要件を満たしていること。ただし、2 年次を経ずに 3 年次に進級することはできません。

- ① 2 4 ヶ月以上在学していること。
- ② 言語科目 12 単位を含む 44 単位以上を修得していること。